



ENEOS

ENEOSのカーボンニュートラル に向けた取り組み

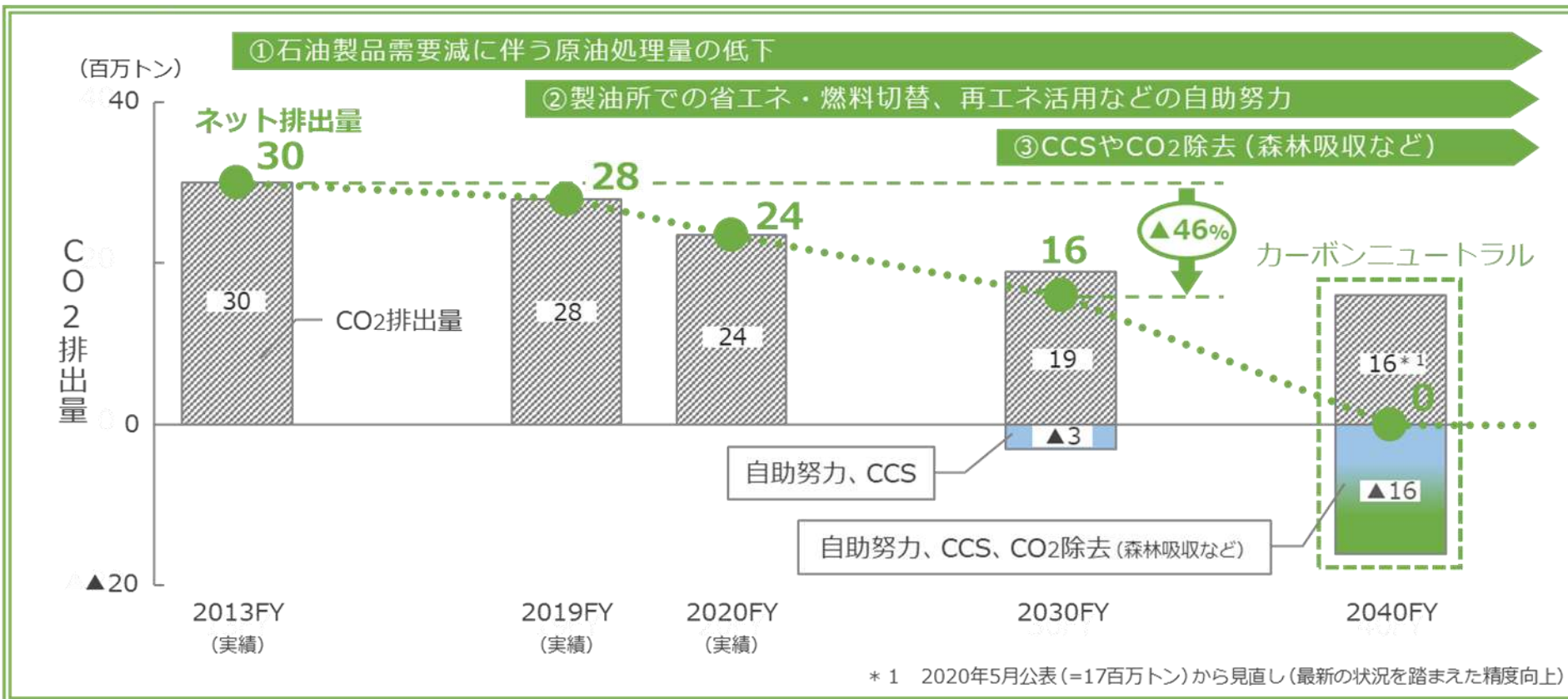
2023年3月3日
ENEOS株式会社

ENEOS株式会社

ENEOSグループのカーボンニュートラル計画

スコープ
1, 2

- ✓ CO₂排出量▲46%目標達成のため、2030年度までにCCS事業開始を目指す
- ✓ 自助努力およびCCSやCO₂除去（森林吸収など）によりカーボンニュートラルを達成



スコープ
3

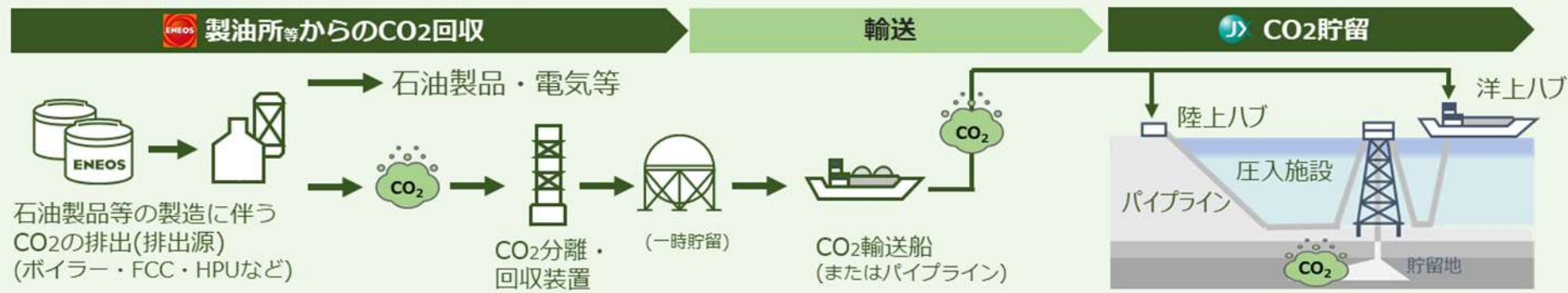
- ✓ 政府・他企業と歩調を合わせて取り組み、2050年度カーボンニュートラル実現を目指す
- ✓ 再エネ拡大、水素・SAF・合成燃料等の早期実用化を通じ、エネルギー転換を推進



CCSの仕組みとENEOSグループの実績

CCSバリューチェーン (CO₂ Capture and Storage : CO₂回収・貯留)

ENEOSの国内CCSバリューチェーンイメージ



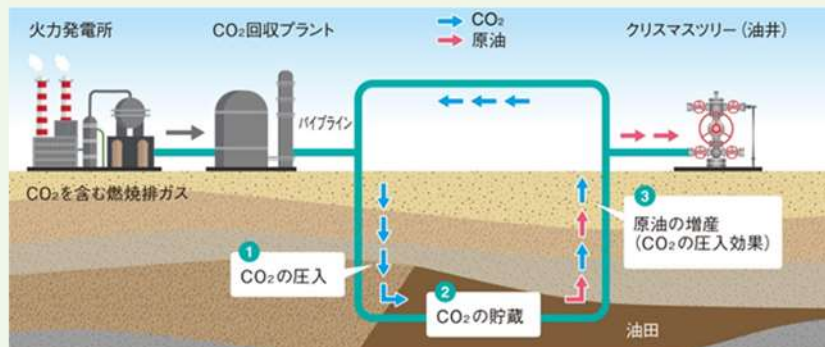
JX石油開発 の CCS実績

Petra Nova CCUSプロジェクト

- ✓ 2016年12月より、米国の火力発電所で発生するCO₂を分離・回収し、老朽化した油田に圧入することで原油を増産回収するプロジェクトを推進
- ✓ 燃焼排ガスからCO₂回収するプラントとしては世界最大

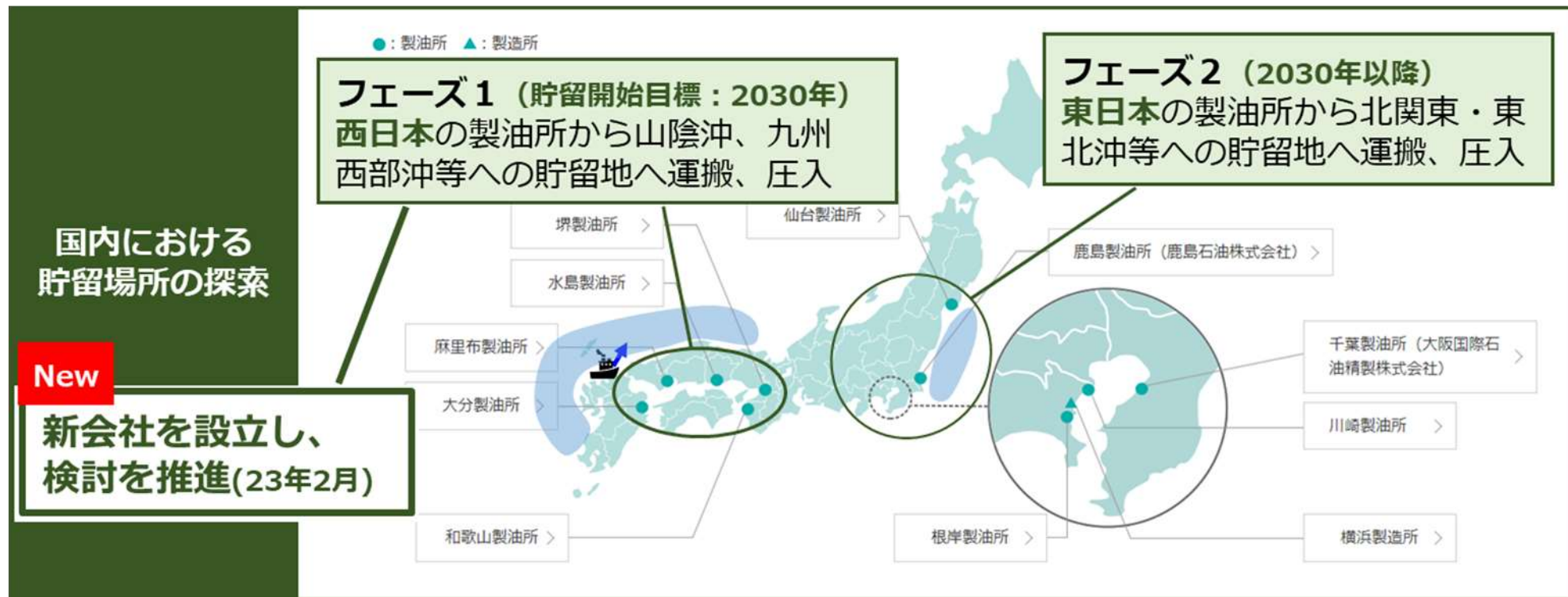
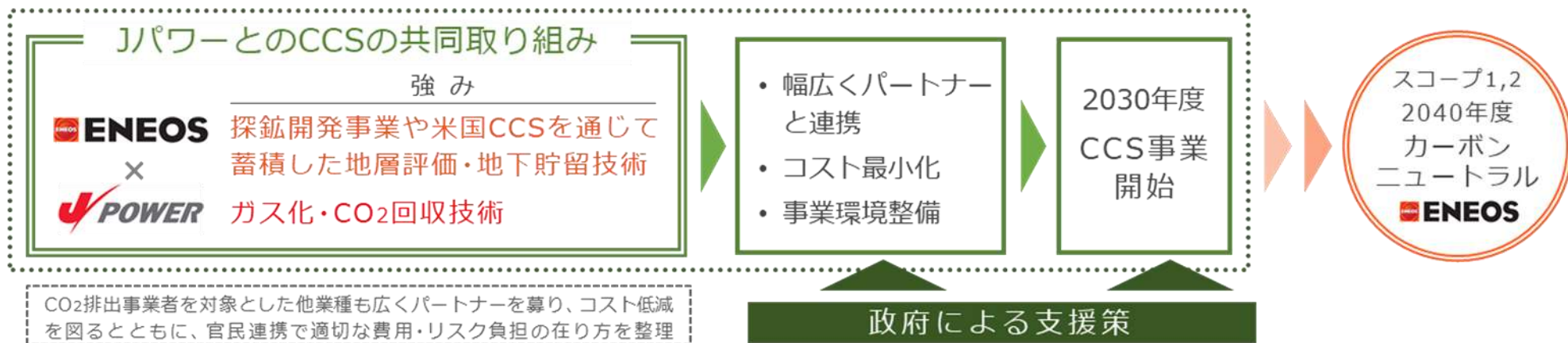


▲ Petra Nova CCUS設備 (米国)

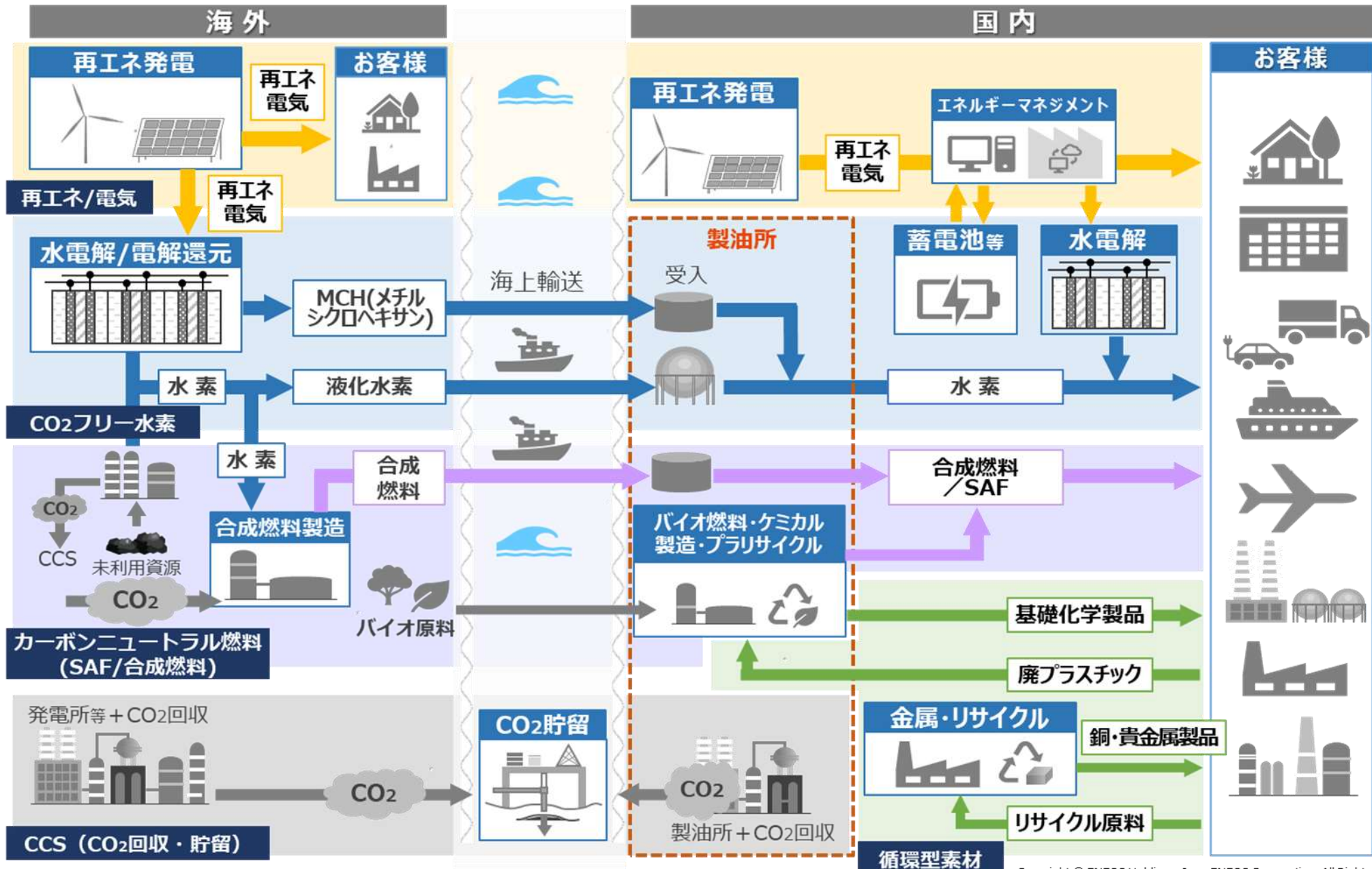


◀ CO₂-EORのプロセス

国内CCSの早期実現に向けたENEOSの取組み

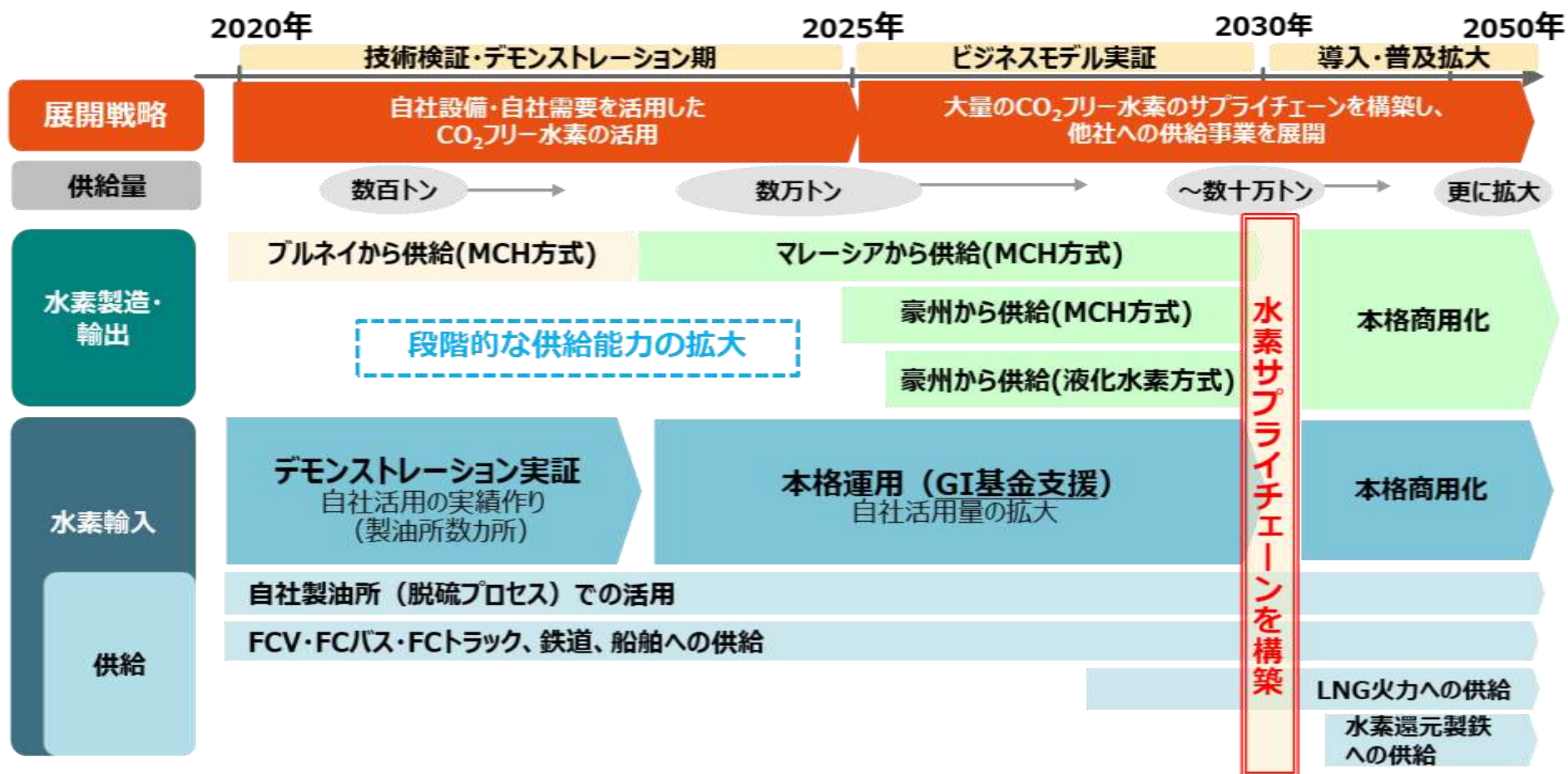


カーボンニュートラル社会実現への取組みの全体像



水素サプライチェーンの構築に向けたENEOSの取組み

- 製油所等の自社アセットを最大限活用したCO₂フリー水素サプライチェーンを構築し、「脱炭素社会を拓く水素事業のリーディング企業」を目指す。
- 2030年までにグリーンイノベーション基金を通じ、技術・ビジネス実証を完了するとともに、2050年カーボンニュートラルに向け、大規模水素サプライチェーンの社会実装を加速する。



SAF供給体制確立に向けたENEOSの取組み

- 自社製造体制を早期に構築するとともに、並行してSAF輸入体制を確立し、国内航空会社への安定供給を実現。中長期的なバイオ資源不足を見据え、合成燃料の開発を推進
 → 和歌山製油所のインフラを活用し、2026年度までに40万kLの製造供給体制を整える

取組み1

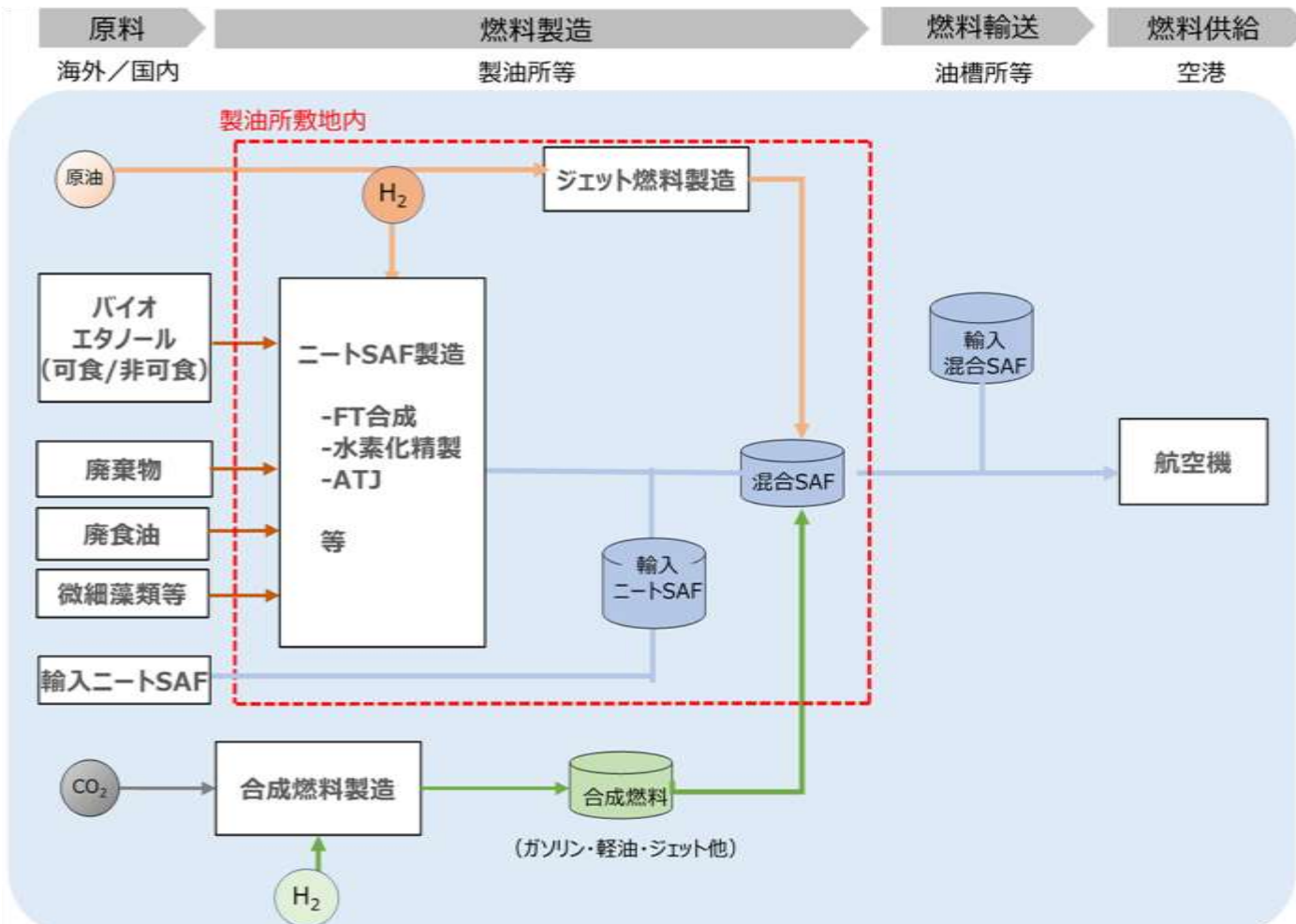
自社SAFの製造体制
早期構築

取組み2

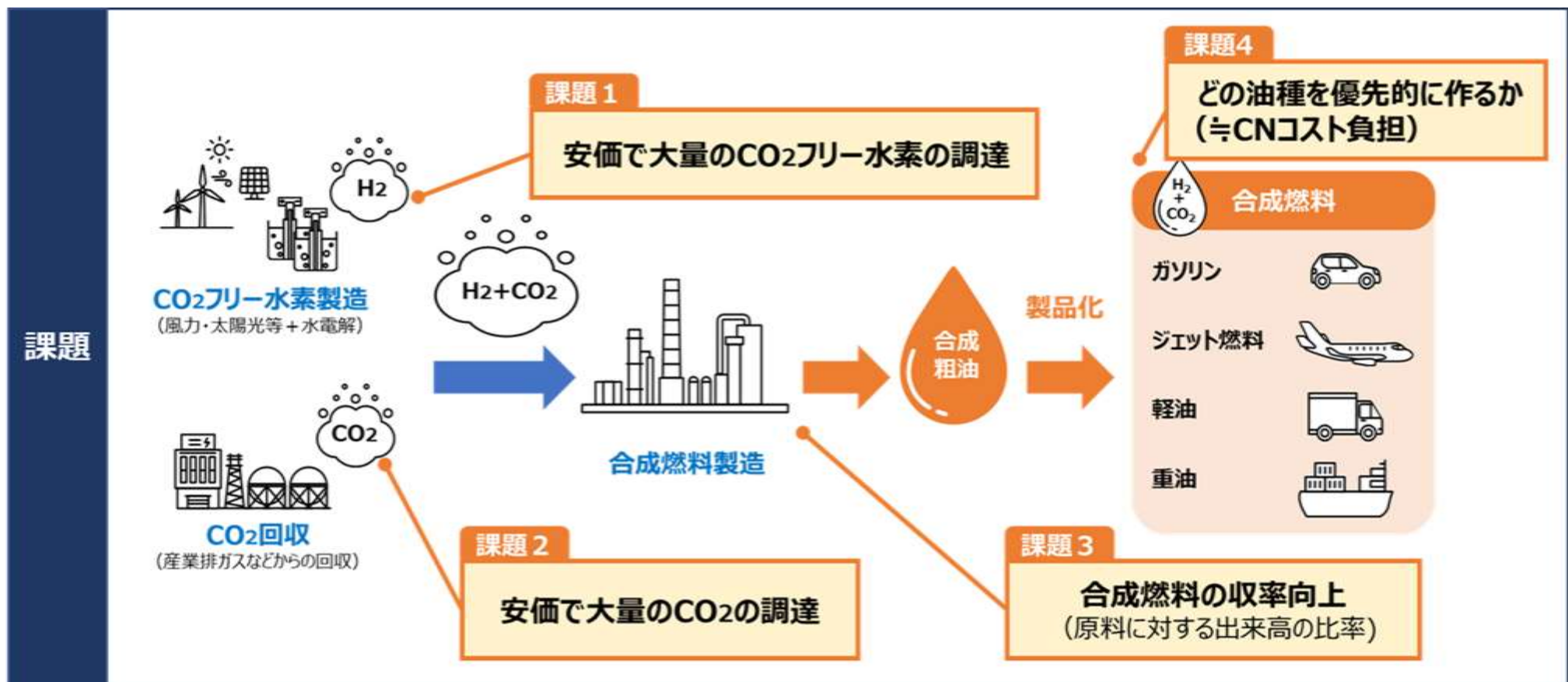
SAFの輸入体制確立

取組み3

革新的なカーボン
ニュートラル燃料製造
技術の開発



合成燃料技術確立に向けたENEOSの取組み



	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
開発スケジュール	ベンチプラント(1BD)		★ 運転	★ サンプルを用いたデモ実施			
			パイロットプラント(300BD)		★ 運転	★ サンプルを用いたデモ実施	
	← グリーンイノベーション基金 →						



**カーボンニュートラル社会の実現に向け、
ENEOSはその活動を推進します。**

ご清聴ありがとうございました。

